



# 興 照 寺 報

平成29年11月

64号



発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



赤いソバの花 (溝辺)

- 一面 「タノム」
- 二面 お寺の伝道掲示板を見て歩こう
- 三面 秋季彼岸法要のお話・浄土真宗の素朴な疑問
- 四面 報恩講のお知らせ・平成三十年のご法事など

## 「タノム」

宮城県であった西本願寺の「全国仏教壮年大会」で、東日本震災で大きな被害を受けた仙台の専能寺の足利一之住職が『たのむり先に』と題し、「苦しくても悲しくても、泣けない人がまだままだいます。お寺は、いつでもどんな時でも皆がそのまま立っていられる場所でありたい」と語られています。さて、この「たのむ」という言葉ですが蓮如上人の書かれた領解文に「われらが今度の一大事の後生御たすけ候えとたのみ申して候」等とあり、浄土真宗では大事な言葉です。でも我々は「たのむ」を「お願いする」という意味にとりがちです。しかしこれは間違いです。本来の意味は「あてにする、憑みにする、力にする」ということです。阿弥陀様は本当の我々の姿を認めてくださった上で力になると誓って下さいました。東井義雄さんの言葉に「拝まない者も おがまれている 拝まないときも おがまれている」というのがあります。我々はそのむ前にたのまれていたのかもしれない。

同じ大会に参加された原発被害を受けておられる方が「講演を聞いて、できることをやってきた自分を認めてもらった気持ちになり、このような場所に出てきて多くの人の話を聞くことが大切だと思いました」と話しておられます。皆さんにも当寺の彼岸等の法要に参加され、話を聞く機会を多く作って頂ければ嬉しいです。

(英孝記)

# お寺の伝道掲示板を 見て歩こう

今、「忙しい」時代でありま  
す。静かにお寺のお説教を聞き人  
生を考える機会が少なくなりつつ  
あります。それは聞きたくないの  
ではなく、聞ききつかけが不足し  
ているのではないかと思います。その意  
味で伝道掲示板は良いご縁の手立  
てとなると思います。



当寺には四ヶ所掲示板がありま  
す。ご存知でしょうか。短い伝道  
句や行事等の連絡事項が書いてあ  
ります。現在次兄夫婦が工夫して  
季節の折り紙や花などで飾り付  
け、目に入りやすい様にしてあり  
ます。

また、伝道句については、本堂  
の玄関横に説明・解説を書いた紙  
が置いてあります。ぜひお取りく  
ださり読んでいただきたいと思います。  
ます。



伝道掲示板にはお寺にとって大  
切な意味があります。そのお寺が  
どのような姿勢で活動しているか  
を示す顔のようなものです。です  
から一番目立つ所に掲げてありま  
す。最近では多くのお寺で伝道掲  
板を見掛ける様になりました。  
各々のお寺でお参詣のご縁を考  
えられての事と思います。

吹上の近くのお寺で今月「仏前  
にぬかずく妻のうしろにて み仏  
と共に妻をおろがむ（拜む）」と  
いう伝道句を見ました。そのお寺  
の先生の優しさ、温かみ、人柄が

良くわかる良い句だと思いまし  
た。皆さんの近くのお寺にも伝道  
掲示板が見られるのではないかと  
思います、散歩がてら、ドライブ  
がてらいろんなお寺の掲示板を見  
て歩かれたら面白いと思います。  
そして少しでも多くの方が心の榮  
養を頂いてお寺にお参りしてみ  
たいと思われたらと期待いたしま  
す。

「人生の真実には、真実のこと  
ばによってふれるほかない」（大  
谷派宗務所）言葉によって「人生  
の暗闇から救われること」もあれ  
ば「なんでもない言葉のゆきちが  
いが、その人を殺す」ことにもな  
るように、どんな言葉に出会うか  
はその人にとって大事なことで  
す。よくかみしめて味わって頂き  
たいものです。



ちなみに吹上の龍泉寺の伝道掲  
示板には、欲多く煩惱まみれで  
「三杯メシのウマイ時に  
勝負しておけ」  
（妙好人 吉兵衛）

と書いてあります。元氣と思う時  
は短い間です。また、年の瀬には  
「煩惱に 馳せ使われて  
走り廻って また年新た」  
と、書くつもりでいます。  
（英清記）



# 秋季彼岸法要

講師 筑波 英道 先生

私たちは命終わったらどこに行くのでしょうか。それを知らずに生きておられませんか？

「苦悩の中にいる私たちをどうしても救わずにはおれない」と胸を痛めてくださっている阿弥陀様がおられます。

「この人生の終わりを、死」と思っておられるかもしれませんが、死ぬんじゃありません。あなたがこの人生を終ることは、わが国（浄土）に生まれることと思ってお下さい。もうその働きを仕上げておられますから、どうかこの『南無阿弥陀仏』に安心して生きてください」という阿弥陀様の仰せを受け取らせていただくことを『信心』と言います。その信心をいただくまなま、決して仏様に成れるはずのないこの私が、必ず仏様に成らせていただく身にいま成らせていただくのです。

私の人生はこのお慈悲の中に生かされてあるのです。私の人生

は、辛いことも悲しいこともたくさんあった人生でしたが、決して無駄なことではなかった。あの辛かったことも悲しかったこともお念仏の確かさを確かめさせていただく。人生は道場でした」と苦悩の中にも生きる意味を私たちに教えてくださっているのです。

私たちもこの人生をもうじき終わっていかねければなりません。この人生の終わりが最後ではなく、この人生の終わりは仏様の世界（浄土）に生まれさせていただくことです。そして、仏様の世界に生まれさせていただいたら、『仏』としてこの娑婆世界に戻って、縁ある方々に、真実に生きる生き方をしてくれ」と阿弥陀様のお働きをそのまま実践させていただくのです。（お中日の法座より）

（英憲記）



## 浄土真宗の素朴な疑問

「正信偈の途中で調子が

ガラツと変わるの

はどうして？」

当寺の正信偈のお勤めを聞いて、あれ？西本願寺さんのよみかたと大分違うなあ、と思われた方もいらっしゃると思います。同じ浄土真宗でも派によって本願寺派には本願寺派の、仏光寺派には仏光寺派の、興正派には興正派の声明があります。声明というのはお勤めをする時の塩梅（抑揚の付け方や節の付け方の調子）の事で、当寺では興正派の声明でお勤めをしています。

それぞれの派で違う塩梅でよまれる正信偈ですが、どの派のお坊さんがよんでも途中でそれまでと雰囲気が変わるところがあります。「善導独明仏正意」から後の部分です。丁度まんなかという訳でもなく、どうしてここからガラツと変わるのかなと疑問に思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

今回はその疑問について解説していきます。正信偈は前半の阿弥陀さ

まの事を書かれた部分と、後半の印度中国日本とその教えを伝えた七人の高僧方の教えについて書かれた部分とに分けられるのですが、節が変わっているのは七高僧の善導大師、源信和尚、源空聖人（法然聖人）のお三方の部分です。七人いらっしゃる中のどうして三人の部分だけ他と違うのか？印度の龍樹菩薩から日本の源空聖人まで伝えられてきた順に説かれているので、このお三方は日本人なのかしら？と思われるかもしれませんが、善導大師は中国の方で源信和尚以降が日本の僧なのでそういう分け方でもないようです。前半後半の境目でもなく、七高僧の国籍で分けているわけでもない。いったい前後にどんな違いがあるのでしょうか。

じつは、ご開山である親鸞聖人が師事された法然聖人（源空聖人）が専修念仏を広められるきっかけになったのが善導大師だったからです。法然聖人が善導大師の御文に触れられなければ親鸞聖人が法然聖人の教えを聞くこともなく、浄土真宗も今に伝わりませんでした。そのため、善導大師以降の部分から調子を変えてよむので

（英之記）

報恩講法要のご案内

- ・期日 十一月十九日(日)
- ・時間 朝席 九時半よりと  
昼席 二時より
- ・講師 北山 祐章先生(広島県)
- ・朝席終了後、午後一時半までお齋とら
- (精進料理・五百円)があります。

追弔法要のご案内

報恩講の際、昨年十一月より本年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を午前十一時半より勤めます。ご遺族の方の多数のご参加をお待ちしております。

平成三十年春季彼岸会法要

(〇のある日時にあります)

- ・時間 朝席十時よりと  
昼席二時より
- ・講師 田村 浩州先生(福岡県)

三月	午前	午後
十八日(日)	〇	〇
十九日(月)	〇	吹上
二十日(火)	吹上	吹上
二十一日(水)	〇	〇
お中日	〇	〇

平成30年行事予定

一月	一日	修正会(正月法要)
三月	十八日(日) 二十一日(水) (水:お中日)	春季彼岸法要
四月	五日(木) 二十一日(土) 二十二日(日)	和順会総会・花祭り・帰敬式 春季永代経法要
八月	十三日(月) 十五日(水)	盆 (一部地域は日が違います)
九月	二十日(木) 二十三日(日) (日:お中日)	秋季彼岸法要
十月	二十日(土)と 二十一日(日)	秋季永代経法要
十一月	二十五日(日)	報恩講・物故者追弔法要
十二月	三十一日	除夜会

花祭り

- ・日 四月五日(木)
- ・時間 十一時より
- ・場所 興照寺
- (和順会総会も合わせて行います)
- ・・・花祭り関係諸募集・・・
- 余興参加者(踊り・カラオケ・詩吟・楽器 演奏)等の参加者を募集します。
- ふるってご参加ください。

帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。是非この機会にお受けください。

当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、三月三十日までにご連絡ください。

平成三十年のご法事

左表の下の年に亡くなられた方が、それぞれの年回忌法要に当たっております。

一周忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
二十五回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十一年
五十回忌	昭和四十四年

〔ご法事の日どり、時間、場所等〕は早めに寺にご相談ください。〔

あ)と)が)き)

朝夕だいぶ寒くなってきました。近頃四季を感じる事が少なくなってきたように思います。のどかな春とすがすがしい秋の期間が短くなったようです。これも地球環境の変化のせいでしょうか。地球にやさしくありたいものです。(英憲記)